

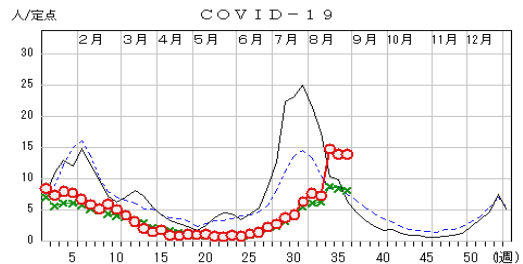
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第36週 2025年9月1日（月）～2025年9月7日（日）2025年9月11日作成

☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

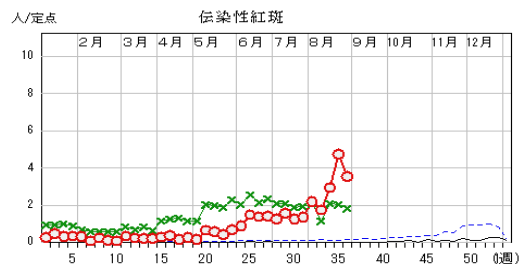
（1）新型コロナウイルス感染症

第36週の報告数は709人で、前週より1人少なく、定点当たりの報告数は13.90であった。
年齢別では、10歳未満（160人）、10～19歳（123人）、70～79歳（83人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（27.33）、対馬保健所（25.67）であった。



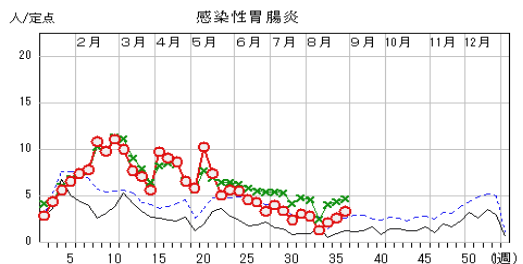
（2）伝染性紅斑

第36週の報告数は110人で、前週より37人少なく、定点当たりの報告数は3.55であった。
年齢別では、5歳（19人）、6歳（19人）、2歳（16人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（8.60）、長崎市保健所（4.83）、佐世保市保健所（4.25）であった。



（3）感染性胃腸炎

第36週の報告数は104人で、前週より24人多く、定点当たりの報告数は3.35であった。
年齢別では、1歳（17人）、10～14歳（17人）、4歳（14人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（7.67）、県北保健所（5.50）、県央保健所（5.20）であった。



○ 当年（長崎県） 前年（長崎県）
× 当年（全国） 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第36週の報告数は709人で、定点当たり報告数は13.90でした。地区別にみると、県北地区（27.33）、対馬地区（25.67）は他の地区より多くなっています。多くの地区で前週より減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【伝染性紅斑】

第36週の報告数110人で定点当たり報告数は3.55となり、5週続けて警報レベルの報告数となりました。地区別では、10保健所中7保健所で警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児の異常や流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。感染経路は、飛沫感染や接触感染ですので、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第36週の報告数は104人で、定点当たりの報告数は3.35でした。地区別にみると、西彼地区（7.67）、県北地区（5.50）、県央地区（5.20）は他の地区より多くなっています。

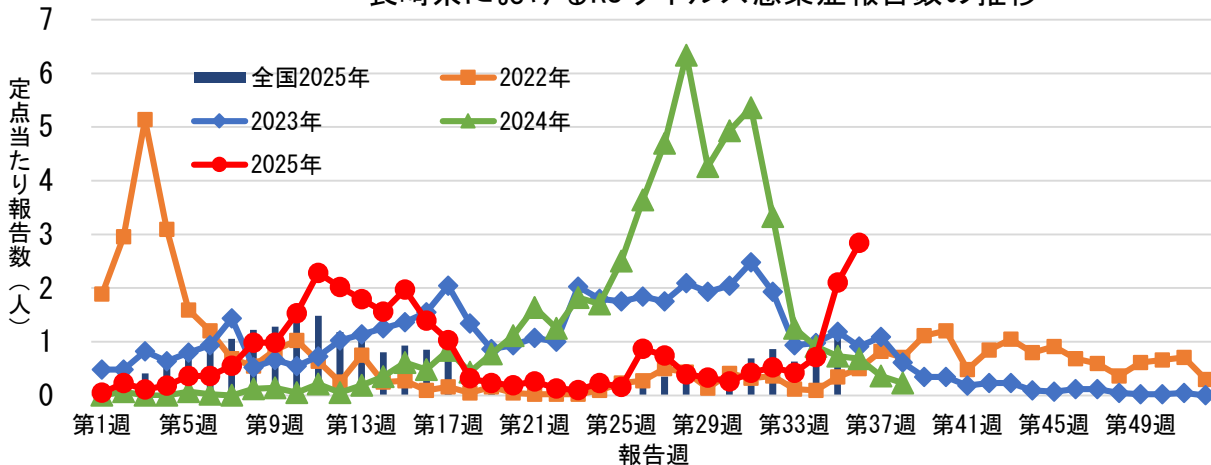
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：RSウイルス感染症に注意しましょう

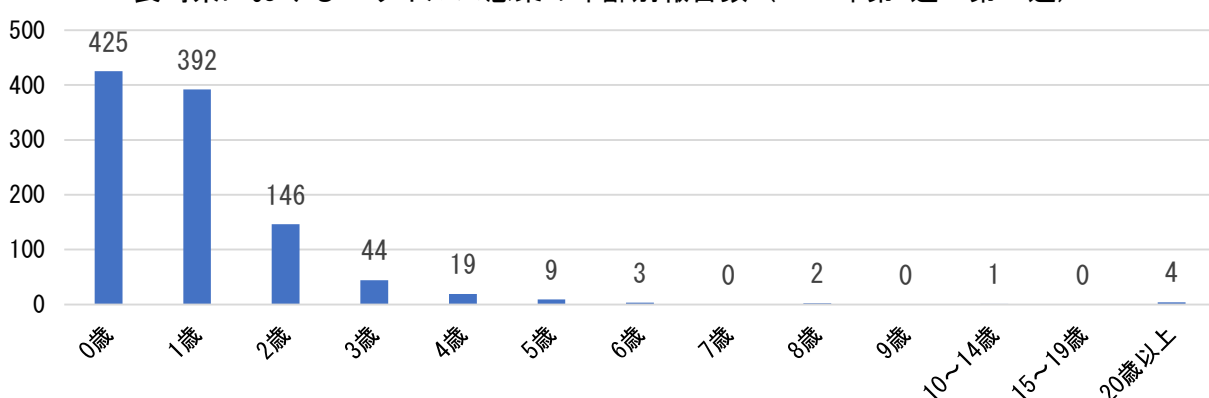
長崎県における2025年第36週の定点当たりの報告数は2.84で、3週続けて増加しました。地区別では、県北地区（12.00）が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。ワクチンはなく、接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

長崎県におけるRSウイルス感染症報告数の推移



(人) 長崎県におけるRSウイルス感染の年齢別報告数（2025年第1週～第36週）



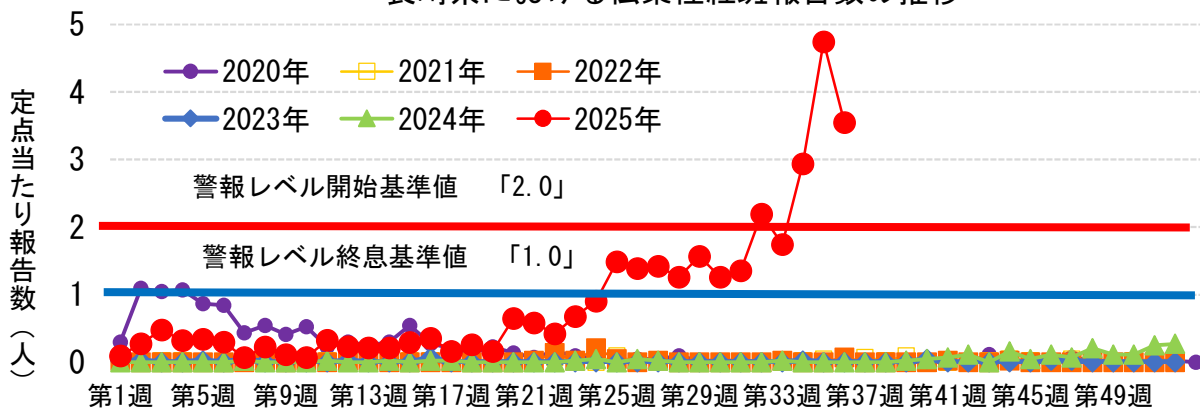
☆トピックス：伝染性紅斑が流行しています

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染症で、小児を中心にみられる流行性の発しん性の病気です。両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ病」と呼ばれることもあります。約10～20日の潜伏期間の後、微熱やかぜの症状などがみられ、その後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がりますが、これらの発しんは1週間程度で消失し、ほとんどは合併症を起こすことなく自然に回復します。一方で、これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性がありますので、注意が必要です。

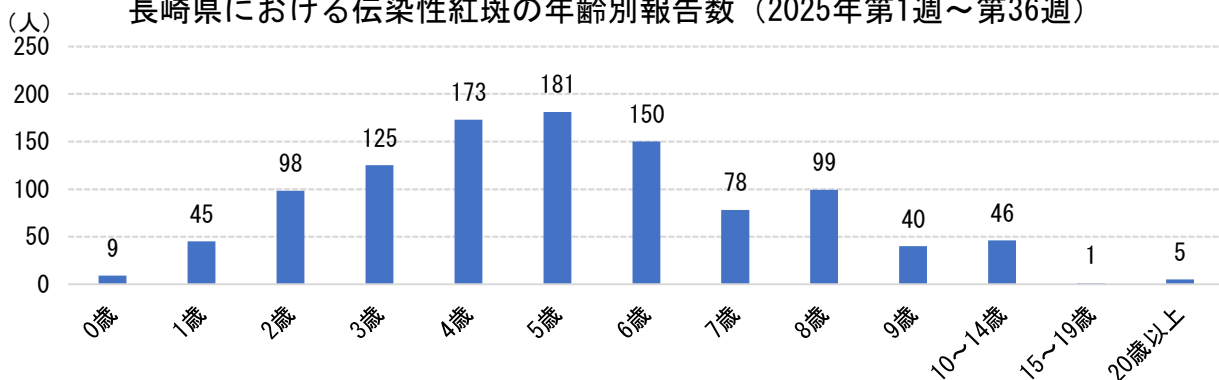
2025年第36週の報告数は110人で定点当たり報告数は3.55でした。第32週に警報レベル開始基準値「2.0」を超え、5週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別では、10保健所中7保健所において、警報レベルの報告数となっています。

感染経路は、飛沫感染や接触感染で、かぜ症状のある時期にウイルスの排出が最も多くなるといわれています。治療薬やワクチンがないため、感染予防が重要です。特に妊娠中の方やそのご家族ではかぜ症状がある方との接触をできる限り避け、手洗いやマスクの適切な着用など感染予防に努めましょう。

長崎県における伝染性紅斑報告数の推移



長崎県における伝染性紅斑の年齢別報告数（2025年第1週～第36週）

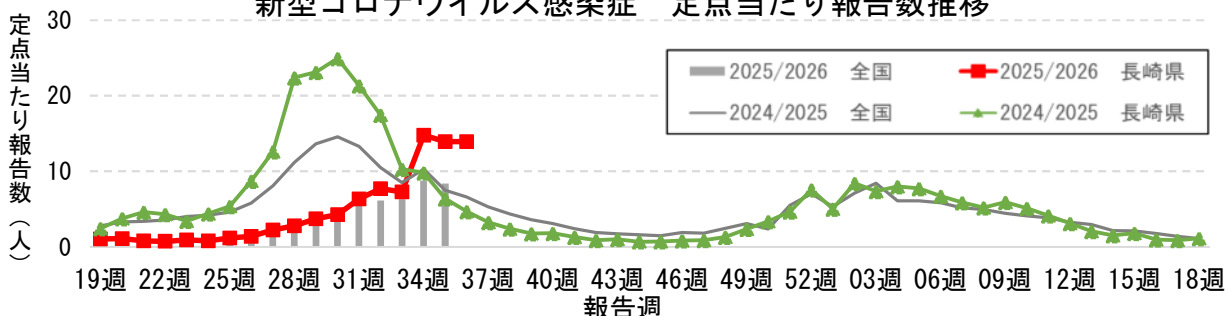


☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第36週の定点当たり報告数は「13.90」でした。地区別では、県北地区（27.33）、対馬地区（25.67）が多くなっています。年代別にみると、10歳未満（22.6%）、10代（17.3%）が多くなっています。

今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

新型コロナウイルス感染症 定点当たり報告数推移



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（80代以上・1名） 女性（20代・1名）
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：レジオネラ症 患者 男性（50代・1名）
 5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 患者 男性（70代・2名）
 水痘（入院例） 患者 男性（10歳未満・1名）
 梅毒 患者 男性（60代・1名）
 百日咳 患者 男性（10歳未満・4名、10代・3名、20代、40代、60代・各1名）
 女性（10歳未満・2名、10代、20代、30代、50代、70代・各1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1） 疾病別・週別発生状況 （第31～36週、7/28～9/7）

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数					
	31週	32週	33週	34週	35週	36週
	7/28～	8/4～	8/11～	8/18～	8/25～	9/1～
インフルエンザ	0.16	0.41	0.18	0.45	0.43	0.61
新型コロナウイルス感染症	6.33	7.67	7.27	14.78	13.92	13.90
RSウイルス感染症	0.42	0.52	0.42	0.71	2.10	2.84
咽頭結膜熱	0.39	0.58	0.23	0.45	0.45	0.52
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.10	2.35	1.16	1.42	2.74	1.68
感染性胃腸炎	3.06	2.81	1.29	2.13	2.58	3.35
水痘	0.16	0.23	0.26	0.48	0.19	0.45
手足口病	0.26	0.13	0.06	0.10	0.29	0.23
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.35	2.19	1.74	2.94	4.74	3.55
突発性発しん	0.42	0.45	0.16	0.39	0.45	0.39
ヘルパンギーナ	0.97	0.65	0.52	0.26	0.35	0.26
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.03	0.06		0.03	
急性出血性結膜炎	0.13	0.29			0.13	0.13
流行性角結膜炎	3.50	1.71	1.00	3.38	2.13	2.25
細菌性髄膜炎				0.08	0.08	
無菌性髄膜炎	0.08			0.08	0.08	0.17
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.75	0.67	0.58	1.17	0.42
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	56.96	59.10	33.02	60.75	62.94	70.43

（2） 疾病別・保健所管内別発生状況 （第36週、9/1～9/7） ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定 点 当 た り 患 者 数 （ 県 ・ 保 健 所 管 轄 別 ）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.61	1.29	0.82		1.60	0.38		0.33	0.33		
新型コロナウイルス感染症	13.90	12.00	12.18	7.33	11.80	13.00	17.60	27.33	8.00	11.67	25.67
RSウイルス感染症	2.84	4.25	3.83		0.33	1.20	5.67	12.00			
咽頭結膜熱	0.52		0.67		0.33	0.20	0.33	4.50			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.68	1.00	0.83		3.00	1.40	7.33	2.00			0.50
感染性胃腸炎	3.35	4.50	3.83	0.50	7.67	5.20		5.50	1.00		
水痘	0.45	0.25	0.67		1.00	0.40	0.67	0.50			0.50
手足口病	0.23	0.25			0.33	0.20		1.00			1.00
伝染性紅斑（リンゴ病）	3.55	4.25	4.83	1.00	1.00	8.60	3.00	3.50			
突発性発しん	0.39	0.25	0.67		0.33	1.20					
ヘルパンギーナ	0.26		0.17	1.50		0.20	0.33		0.50		0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	2.25	1.00	1.00		5.00		9.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.17	2.00									
マイコプラズマ肺炎	0.42		1.00				1.00	1.00			
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	70.43	85.00	113.45	31.33	74.40	74.63	43.80	65.00	12.33	34.00	44.33